

# 車の周囲の安全を確認してから発進！

## 「4 m先まで死角」

### 車の出庫時に、子ども巻き込み

### 相次ぐ事故を防ぐには

出発前に、車の周囲の安全を確認することが大切だ！

「車体の前後や下を確認して乗車するという、基本を徹底してほしい」

2018/11/10(土) 10:01

親が自宅の駐車場から出そうとした車に接触し、幼児が亡くなる事故が目立っている。警察によると、親は娘や息子が自宅にいると思込み、子どもに気付かず車を発進させたとみられる。

車の周囲は運転席から死角になるため、身長の低い子どもの姿は見えにくい。専門家は「車体の前後や下を確認して乗車するという基本を徹底してほしい」と呼び掛ける。

運転手の身長や車体で異なるが、乗用車の運転席からは約4メートル先の地面までが死角になるという。

交通課長は「どんな車でも、至近距離にいる子どもは運転席から見えない。事故は誰にでも起こり得た」と強調。

「小さな子がいる家庭は、車に子どもを乗せてから発進してほしい」と警告する。

さらに、近年普及が進むハイブリッド車などは、ガソリン車よりもエンジンの始動音や走行音が静かとされる。

「車が動いても、子どもは音に気付かず逃げられない。親が初心に戻って、出発前に車の周囲の安全を確認することが大切だ」。

幼児が普段から車が停まっていない駐車場で遊んでいる可能性にも言及。自宅から車へ向かう両親の後をついてくることも考えられるという。「親は子どもの遊び場に車を置かせてもらっていると認識し、注意を働かせることが必要」と指摘した。

ゆっくりと走る車が比較的多い商業施設の駐車場や私有地などで2013～17年、車と接触して重傷を負った未就学児は9人を数え、15年には1人が亡くなった。

「子どもは車体の下に体が入って、タイヤにひかれ、重傷を負うケースが目立つ」としている。